

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名：一般国道38号 <small>くしろしんどう</small> 釧路新道	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北海道開発局																							
起終点：自： <small>ほっかいどうくしろ にいの</small> 北海道釧路市新野 至： <small>ほっかいどうくしろ きたぞの</small> 北海道釧路市北園	延長：8.8 km																								
事業概要： 一般国道38号は、滝川市を起点とし、釧路市に至る延長約300kmの幹線道路である。 釧路新道は、拠点空港釧路空港等への物流効率化等の支援をするとともに、釧路市街における交通混雑、交通事故の低減等を目的とした、釧路市新野から釧路西インターチェンジに至る延長8.8kmの4車線整備事業である。																									
H4年度事業化	S53年度都市計画決定 (H一年度変更)	H4年度用地着手 H4年度工事着手																							
全体事業費	約498億円	事業進捗率：約81% (平成31年3月末時点)																							
供用済延長：8.8 km																									
計画交通量：13,400～20,800台/日																									
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">B/C</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">総費用</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">総便益</td> <td style="width: 15%;"></td> <td style="width: 15%; text-align: center;">基準年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業全体)</td> <td style="text-align: center;">1.3</td> <td style="text-align: center;">83/829億円</td> <td></td> <td style="text-align: center;">121/1,069億円</td> <td></td> <td style="text-align: center;">令和元年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業)</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> <td style="text-align: center;">(事業費：70/773億円 維持管理費：13/56億円)</td> <td></td> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益：116/950億円 走行経費減少便益：3.1/97億円 交通事故減少便益：2.6/23億円)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	B/C		総費用		総便益		基準年	(事業全体)	1.3	83/829億円		121/1,069億円		令和元年	(残事業)	1.5	(事業費：70/773億円 維持管理費：13/56億円)		(走行時間短縮便益：116/950億円 走行経費減少便益：3.1/97億円 交通事故減少便益：2.6/23億円)			総費用：(残事業)/事業全体 83/829億円 (事業費：70/773億円 維持管理費：13/56億円)	総便益：(残事業)/事業全体 121/1,069億円 (走行時間短縮便益：116/950億円 走行経費減少便益：3.1/97億円 交通事故減少便益：2.6/23億円)	基準年：令和元年
B/C		総費用		総便益		基準年																			
(事業全体)	1.3	83/829億円		121/1,069億円		令和元年																			
(残事業)	1.5	(事業費：70/773億円 維持管理費：13/56億円)		(走行時間短縮便益：116/950億円 走行経費減少便益：3.1/97億円 交通事故減少便益：2.6/23億円)																					
感度分析の結果： 事業全体および残事業について感度分析を実施																									
【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.5 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.3～1.3 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.3～1.3 (事業期間±20%)																									
【残事業】交通量：B/C=1.2～1.9 (交通量±10%) 事業費：B/C=1.3～1.6 (事業費±10%) 事業期間：B/C=1.4～1.5 (事業期間±20%)																									
事業の効果等 事業の必要性及び効果																									
①交通混雑の緩和 ・釧路外環状道路の全線開通に伴い釧路新道の混雑度が上昇しているため、当該道路の4車線整備により、交通混雑の緩和が期待される。																									
②道路交通の安全性向上 ・暫定2車線開通に伴い、死傷事故率が100件/億台キロを上回る地点が4地点に減少したほか、死傷事故は約7割減少している。また、大型車の交通転換により、大型車事故も減少しているため、更なる道路交通の安全性向上が期待される。																									
③空港からの利便性向上 ・釧路空港を起点とした観光ツアーの広域化や選択肢の拡大、空港から合宿地へのアクセス性が更なる高まることが見込まれ、釧路空港からの利便性向上が期待される。																									
④水産品の流通利便性向上 ・水産品加工工場や道内市場、釧路空港や苫小牧港等から全国各地へ出荷される水産品の流通利便性向上が期待される。																									
⑤災害時の避難・輸送ルートの強化 ・災害発生時の迅速な避難及び救急搬送のほか、被災地外からの救援物資等の輸送ルートの強化が期待される。																									
関係する地方公共団体等の意見 地域から頂いた主な意見等： 釧路市など1市6町1村の首長等で構成される「北海道釧路地方総合開発促進期成会」等より早期整備の要望を受けている。																									

知事の意見：

釧路外環状道路と一体となったバイパスの整備により、拠点空港釧路空港、国際バルク戦略港湾釧路港へのアクセス強化とともに、釧路市街における交通混雑の緩和や道路交通の安全性向上が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はありません。

なお、事業の実施にあたっては、周辺環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト削減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期供用を図るようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・北海道横断自動車道が池田IC～阿寒ICまで開通
- ・国道38号・44号 釧路外環状道路 釧路西IC～釧路別保IC開通
- ・国道272号 上別保道路 開通 (L=7.8km)
- ・市町村合併により、「釧路市」が誕生
- ・釧路港が国際バルク戦略港湾(穀物)、特定貨物輸入拠点港湾(穀物)に指定、国際物流ターミナルが運営開始
- ・釧路空港を含む北海道内7空港特定運営事業等実施方針が策定、北海道内国管理4空港特定運営事業等基本協定書が締結

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成4年度に工事着手して、用地進捗率100%、事業進捗率約81%となっている。(平成31年3月末時点)

平成25年度：延長8.8km(2/4)全線開通

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

環境調査の結果に基づく施工計画の見直しによる変更。

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト削減に取り組んでいく。

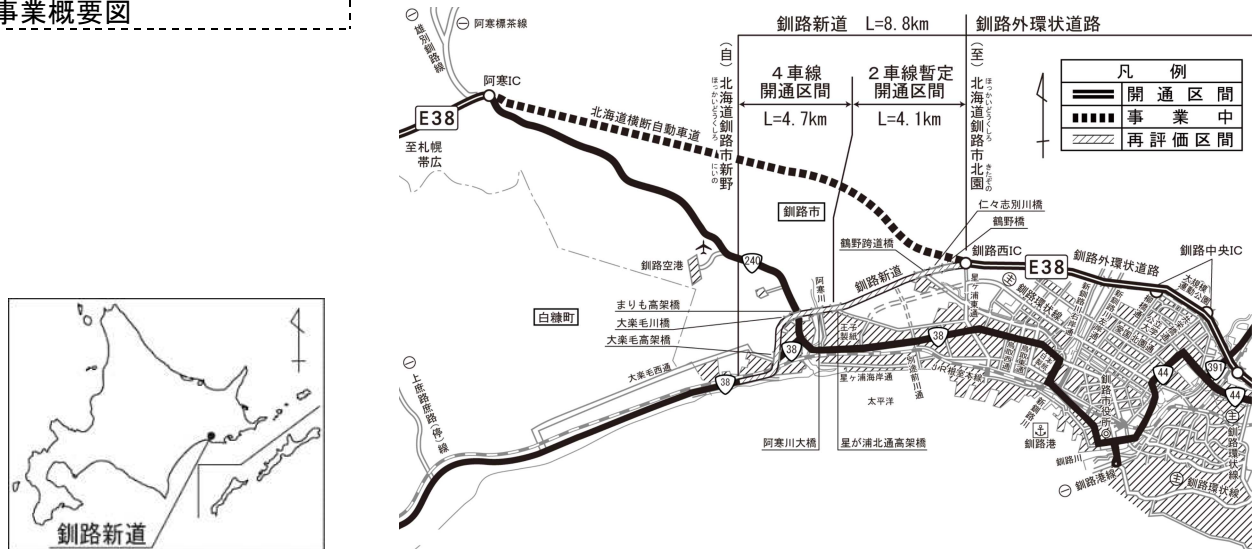
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 費用対効果分析及び感度分析の結果の欄に係る数値は令和元年度評価時点。